

群馬県議会議員

須永さとし

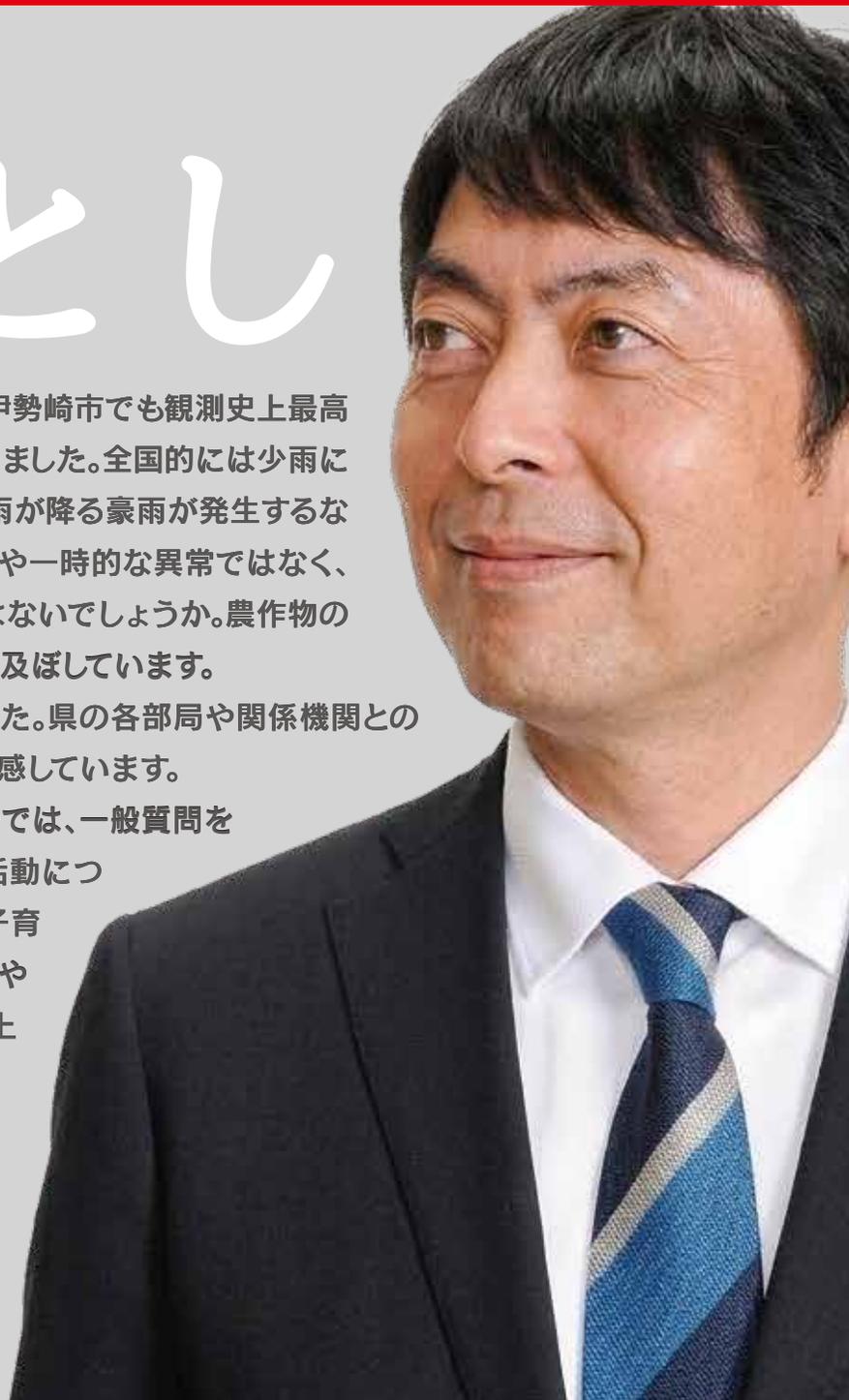
ご挨拶 昨夏は日本各地で記録的な猛暑となり、伊勢崎市でも観測史上最高気温を記録するなど、特に厳しい暑さとなりました。全国的には少雨による水不足が懸念される地域がある一方、短時間に猛烈な雨が降る豪雨が発生するなど、近年は極端な気象が続いています。こうした状況は、もはや一時的な異常ではなく、異常気象が常態化する時代に入ったことを示しているのではないのでしょうか。農作物の高温障害など、気候変動は地域の暮らしや産業に直接影響を及ぼしています。

そうした中、県議会議員としての活動も三年目を迎えました。県の各部局や関係機関との連携も深まり、地域の声を県政へ届ける責任の重さを日々実感しています。

この度、「県議会レポートVol.3」をお届けいたします。本号では、一般質問をはじめ、委員会活動や県内外の調査など、これまでの主な活動についてご報告いたします。議会では、農業や地域産業の振興、子育て・福祉の充実、若者を取り巻く社会課題への対応、人材育成や地域活性化など、地域の将来につながる幅広いテーマを取り上げてまいりました。

社会や環境が大きく変化する今こそ、現場の声を県政へ届け、政策として形にしていくことが政治の責任です。その思いを胸に、これからも全力で取り組んでまいります。

今後とも、皆さまのご意見やご要望をお寄せいただければ幸いです。



担い手育成の最前線 農林大学校の施設老朽化

常任委員会の視察で、高崎市にある群馬県立農林大学校を訪れました。ここは農業・林業の担い手を育てる最前線の教育機関ですが、現地を見て施設の老朽化の深刻さを強く感じました。多くの学生が寮生活を送る中、居室や風呂、空調、トイレなど生活に直結する設備に加え、体育館や実習・作業を行う施設についても老朽化が進んでいました。生活の場と学び・実習の場の双方において、安全性や衛生面、教育環境への影響が懸念される状況でした。志をもって群馬の農業の未来を担おうと学ぶ学生たちにも、部分的な修繕にとどまらない計画的な施設改修と十分な予算確保が必要であると強く感じました。



GACHi (ガチ) 高校生× 県議会議員

群馬県議会では、議員が高校などを訪問し、生徒の皆さんと意見交換を行う「GACHi (ガチ) 高校生×県議会議員」の取組を実施しています。私も毎年参加していますが、今年度は11月7日、群馬県立高崎特別支援学校を訪問しました。生徒の皆さんと、学校生活の中で感じていることや学校生活での要望など、身近なテーマについて意見交換を行い、大変貴重な時間となりました。

県政をもっと身近に!

発行/須永さとし 事務所
〒379-2204
伊勢崎市西久保町1丁目28-1
TEL 0270-61-5810
FAX 0270-61-5810
E-mail main@sunaga-satoshi.sakura.ne.jp



Follow me!!



Facebook



ご意見、ご要望をお聞かせください

ホームページ <https://sunaga-satoshi.com>

一般質問に立ちました

令和7年第2回定例会 5月29日 本会議（一般質問）

QRコードから動画でご覧いただけます



■ 農畜産物のブランド戦略

①G-アナライズ&PRチーム ②群馬県のイチゴ振興

Q 全国でいちごの新品種競争が激化する「イチゴ戦国時代」の中、県では新品種「群馬I-RG1」「群馬I-RG3」を開発した。これらを活用し、群馬県いちごのブランド力をどのように高めていくのか伺いたい。

A 主力品種「やよいひめ」は県内生産の約8割を占め高い評価を得ているが、収穫開始が遅いという課題がある。県では10年以上の研究を経て新品種を開発した。今後は成分分析による差別化、試験栽培、苗供給体制の整備を進め、「やよいひめ」と併せた3品種体制で群馬県いちごのブランド力向上を図っていく。



■ 若者のオーバードーズ対策

Q 若年層の薬物事犯が増加する中、市販薬を大量に服用するオーバードーズ（過剰摂取）がSNS等を通じて広がり、新たな薬物依存の入り口として問題視されている。若年層の薬物問題の現状と対策、また販売現場で異変に気づいた薬剤師などが相談や支援につなげる「ゲートキーパー」としての役割について伺いたい。

A 若年層では大麻乱用の広がりなど薬物問題は深刻な状況にある。オーバードーズは心身に悪影響を及ぼし、薬物依存や違法薬物の使用につながる可能性がある。県では危険性の周知・予防啓発・相談窓口の整備を進め、学校や関係機関、販売現場とも連携しながら早期支援につながる体制づくりに取り組んでいく。



る可能性がある。県では危険性の周知・予防啓発・相談窓口の整備を進め、学校や関係機関、販売現場とも連携しながら早期支援につながる体制づくりに取り組んでいく。

■ ダブルケアラー支援

Q（質問要旨）子育てと親の介護を同時に担うダブルケアは、働き盛り世代を直撃する社会課題となっています。県としてダブルケアラーの現状認識と、今後の実態把握および支援の方向性。

■ 朝のこどもの居場所づくり

Q（質問要旨）共働き世帯の増加により、登校前の子どもの居場所づくりは「小1の壁」対策として重要な課題となっています。県が今年度から実施する朝のこどもの居場所づくりモデル事業の内容と取組状況。

■ 内水面漁業振興

Q（質問要旨）担い手減少や遊漁料収入の減少により、内水面漁協の持続性が課題となっています。漁場管理や地域活動を担う漁協への県の支援のあり方。

■ デジタル人材育成（TUMO）

Q（質問要旨）世界的に注目されるデジタル教育拠点「TUMO Gunma」が今年、高崎のGメッセに開設。県として目指すデジタルクリエイティブ人材育成の方向性と、市町村への展開。

■ ロケ誘致の推進

Q（質問要旨）映画やドラマなどのロケ誘致を地域活性化につなげるための県内フィルムコミッションとの連携強化。またロケ誘致による経済波及効果の把握と支援制度への活用。

委員会の所属

【環境農林常任委員会】

農業振興、林業振興、環境保全、鳥獣対策、農林業の担い手育成など

月いち委員会の県内調査（令和7年8月26日）

ぐんまフラワーパークプラス（前橋市） 花と緑に親しむ県民の憩いの場。花き産業振興と観光振興の拠点。令和7年10月リニューアルオープン。花に関心を持つきっかけづくりと花き需要喚起の新たな拠点。

決算特別委員会（環境農林分科会）県内調査（令和7年10月15日）

群馬県米麦種子センター（玉村町）

米・麦の優良種子の生産供給拠点。安定した農業生産を支える種子供給体制と品質管理。

群馬県林木育種場（渋川市）

林木の品種改良と優良苗木の生産施設。森林資源の持続的利用と林業振興を支える研究拠点。



月いち委員会の県内調査（令和8年1月22日）



林業試験場（榛東村） 森林施業技術、木材利用、きのご栽培、野生鳥獣対策など森林・林業分野の研究機関。地域林業を支える技術開発拠点。

農林大学校（高崎市） 農業・林業の担い手育成を目的とした県立専修学校。生産から流通・販売まで学ぶ実践教育。農林業人材育成の拠点。

県外調査（令和7年7月23日～25日）

福井県越前市 全国初の「オーガニックビレッジ」宣言。有機農業の産地形成とスマート農業導入。環境と調和した農業モデル。

株式会社中東（石川県能美市） CLT・大断面集成材など木材の高付加価値利用。木質ペレットなど木材資源の循環利用。

農事組合法人んなーがら上野堂農組合（石川県白山市） 担い手組織主体の農業経営と合理的営農システム。地域農業を支える法人モデル。

YKK株式会社（富山県黒部市） 自然との共生をテーマとした環境保全活動。自然共生サイト「ふるさとの森」。企業によるネイチャーポジティブの取組。



【地域支援に関する特別委員会】

農業振興、林業振興、環境保全、鳥獣対策、農林業の担い手育成など

県外調査（令和7年9月1日～3日）

MOBIO（大阪府東大阪市） ものづくり中小企業の総合支援拠点。常設展示場による技術発信と国内外ビジネスマッチング。

関西文化学術研究都市（京都府） 大学・研究機関・企業研究所が集積する研究都市。産学公連携による研究開発拠点。

KICK（京都府精華町） オープンイノベーション拠点。健康・医療、ICT、エネルギー分野の研究開発。自動運転バス実証など先端技術の社会実装。

STATION Ai（愛知県名古屋市） 国内最大級のスタートアップ支援拠点。起業支援と新規事業創出のプラットフォーム。

会派視察 自由民主党1期生（令和7年11月18日～19日）

谷牧場（京都府南丹市） 自動搾乳ロボットやセンサーを活用したスマート畜産。少人数で約170頭を飼養する効率的な酪農経営モデル。

文化庁京都移転の取組（京都市） 中央省庁の地方移転による文化行政の地方分散。文化政策と地域資源を結びつけた文化拠点。

アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都（京都府大山崎町） アートとデジタル技術の融合拠点。XR・生成AIなど先端技術によるコンテンツ産業創出。

北大阪健康医療都市（健康）（大阪府吹田市・摂津市） 国立循環器病研究センターを核とした研究都市。企業・大学・自治体連携による健康医療研究拠点。

各地の先進事例を参考に群馬県の
農林業振興と地域活性化につなげてまいります。